令和８年度　北稜中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

Ⅰ「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

１　全国学力・学習状況調査

※英語はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式 （CBT＝Computer Based Testing）で実施。

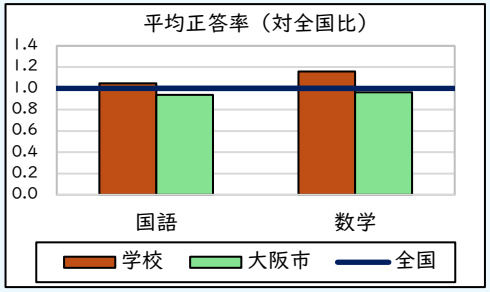
学年		生徒数（人）	平均正答率（%）		平均無解答率（%）		平均IRTスコア 英語4技能 （）内は3技能（参考）
実施月日			国語	数学	国語	数学	
３　年	学校	149	67	66	2.7	6.3	554（547）
	大阪市	－	60	55	5.4	11.4	499（499）
4月23日	全国	－	63.9	57.0	4.9	10.4	499（499）

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。
　この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。
※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

令和８年度　全国学力・学習状況調査　教科に関する調査結果の概要（国語・数学）

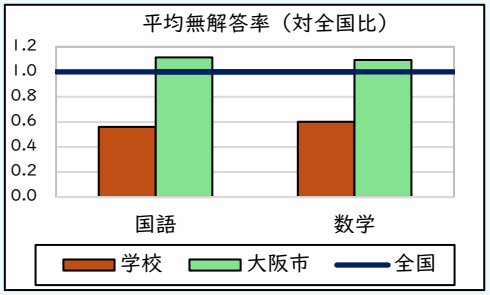
平均正答率（%）

	国語	数学
学校	67	66
大阪市	60	55
全国	63.9	57.0



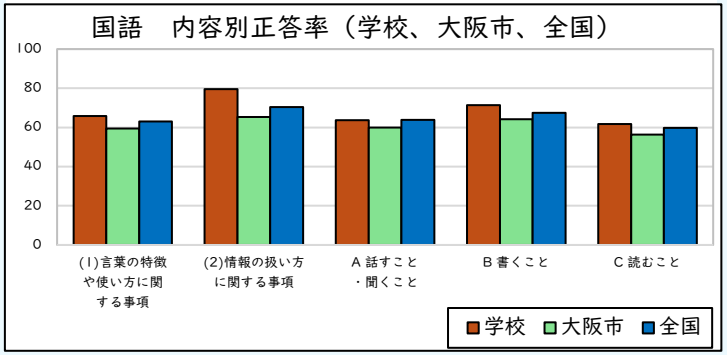
平均無解答率（%）

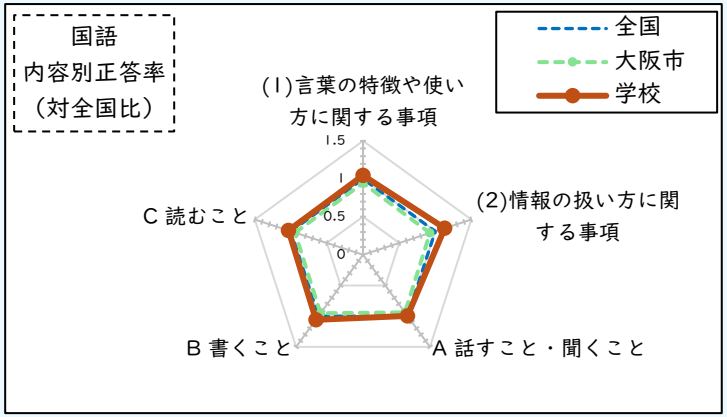
	国語	数学
学校	2.7	6.3
大阪市	5.4	11.4
全国	4.9	10.4



【国語】内容別正答率

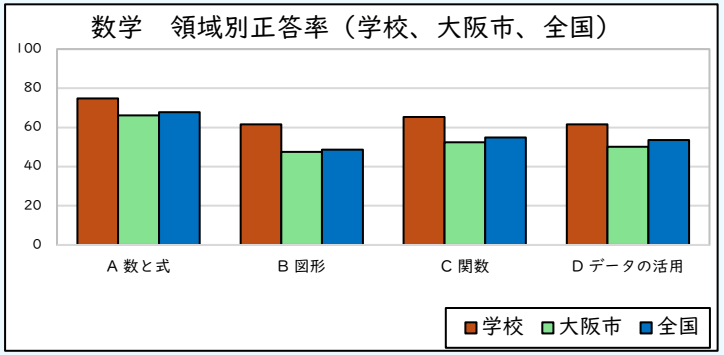
学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（%） 学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	5	65.9	59.5	63.0
(2)情報の扱い方に関する事項	1	79.6	65.3	70.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	0	－	－	－
A 話すこと・聞くこと	3	63.7	59.9	63.9
B 書くこと	3	71.4	64.2	67.4
C 読むこと	3	61.7	56.3	59.7

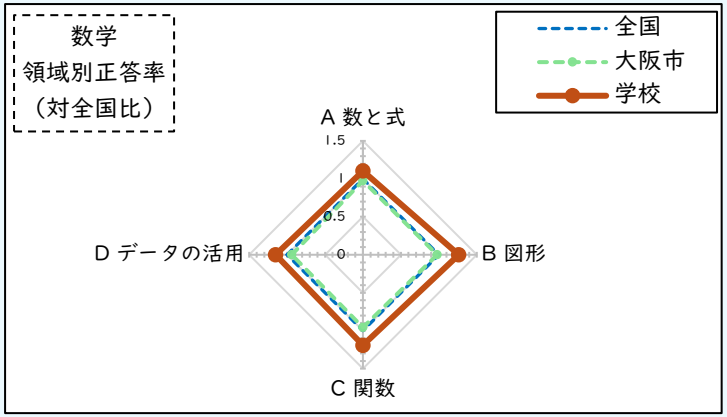




【数学】領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数（問）	平均正答率（%） 学校	大阪市	全国
A 数と式	5	74.8	66.1	67.8
B 図形	4	61.5	47.6	48.7
C 関数	3	65.3	52.5	54.8
D データの活用	4	61.6	50.2	53.5





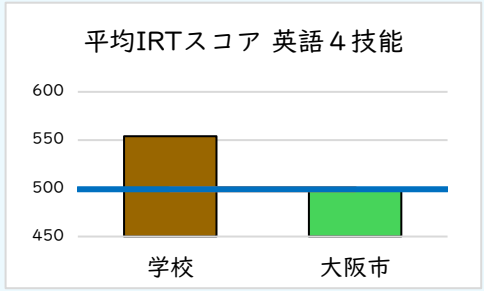
令和８年度　全国学力・学習状況調査　教科に関する調査結果の概要（英語）

英語　平均IRTスコア

学校	554（547）
大阪市	499（499）
全国	499（499）

※４技能の平均IRTスコアです

※（　）内は３技能の平均IRTスコアです



	IRTバンド分布比較（４技能）				
	1	2	3	4	5
学校	2.1	12.7	37.3	38.7	9.2
大阪市	6.8	27.8	34.9	23.9	6.6
全国	6.1	27.5	36.7	23.9	5.8

※４技能のIRTバンド分布です

【IRT(Item Response Theory：項目反応理論）とは】

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

【IRTスコアとは】

IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

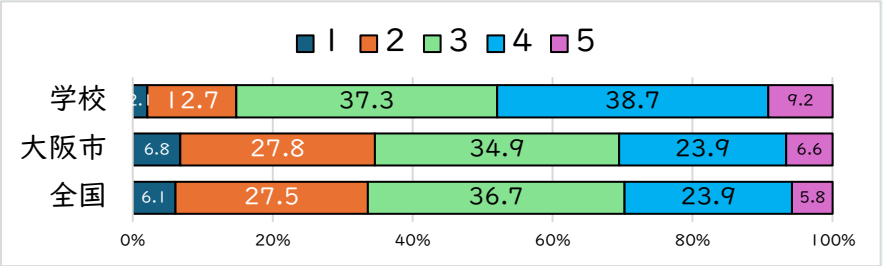
導入する年（中学校英語は令和８年度）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。

【IRTバンドとは】

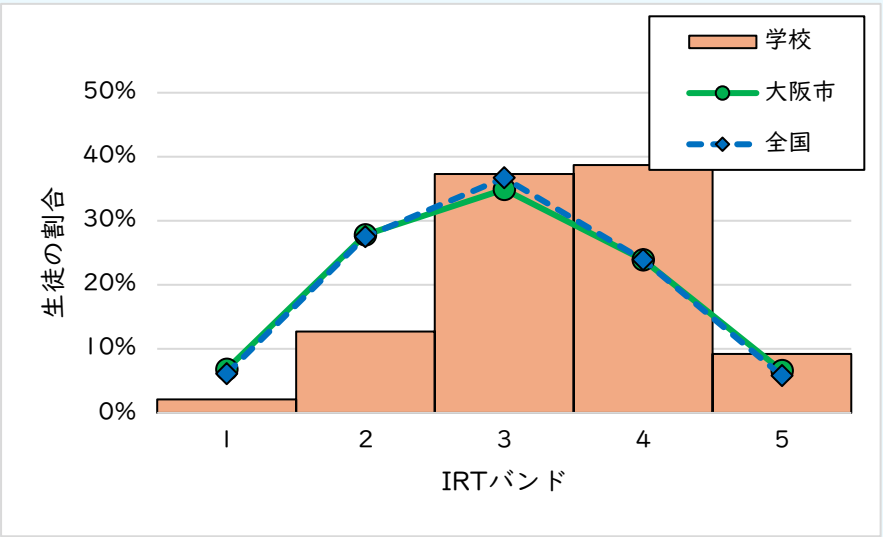
IRTスコアを１～５の５段階に区切ったものです。３を基準のバンドとし、５が最も高いバンドとなります。

※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題にしていると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

IRTバンド分布比較（４技能）



IRTバンド分布グラフ（４技能）



調査結果とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について

成果と課題

１．全国学力・学習状況調査

【国語：成果と課題】

平均正答率は67%で、全国（63.9%）・大阪市（60%）を上回りました。特に、情報の関係を捉えることや、文章の構成を把握すること、読み手の助言を踏まえて文章のよい点・改善点を見いだすことに強みが見られました。一方、話合いを踏まえて自分の考えをまとめる問題や、文章表現の効果を説明する問題では、全国を下回りました。複数の意見や文章の内容を踏まえ、根拠を明確にして考えを表現する力に課題が見られます。

【数学：成果と課題】

平均正答率は66%で、全国（57%）・大阪市（55%）を上回りました。「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の全領域に加え、すべての問題で全国・大阪市を上回り、知識・技能と思考・判断・表現の双方で良好な結果が見られました。特に、図形の証明や確率を求める問題に強みが見られます。一方、データの傾向から判断の理由を説明する問題の正答率は35.6%にとどまり、根拠を示して説明する力には課題が残りました。

【英語：成果と課題】

「聞くこと・読むこと・書くこと」の公開問題の多くで、正答率が全国・大阪市を上回りました。特に、読んだ内容に対する自分の考えと理由を書く問題や、与えられた情報を基に英文を書く問題で良好な結果が見られました。記述問題の無解答率も全国・大阪市より低い結果でした。一方、アナウンスから必要な情報を聞き取る問題では、全国・大阪市を下回りました。目的や状況に応じて、必要な情報を正確に聞き取る力に課題が見られます。

今後に向けて

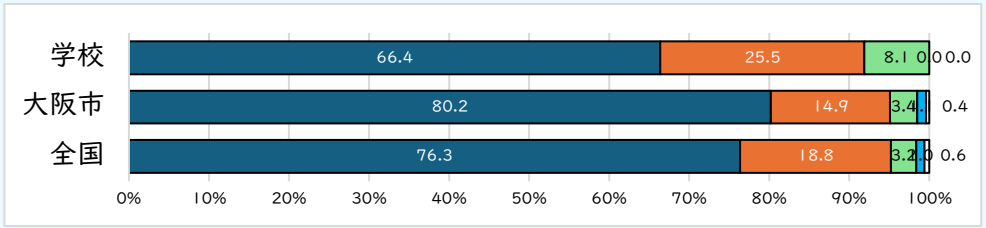
１．全国学力・学習状況調査

基礎的な知識・技能の定着を図るとともに、根拠を明確にして自分の考えを表現する学習を充実させます。国語では文章や発言、数学では式・図・グラフ、英語では聞いた内容や読んだ内容を基に、考えや理由を説明し合う活動を大切にします。英語では、目的を意識して必要な情報を聞き取る活動も充実させます。また、生徒の理解やつまずきを丁寧に把握し、一人ひとりに応じた支援と学習の振り返りを通して、学んだことを活用する力を育てます。

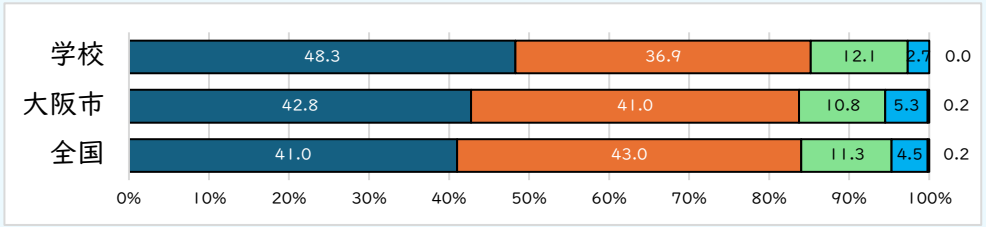
生徒質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

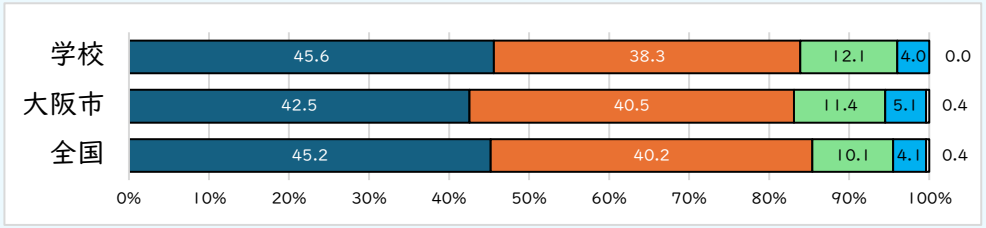
質問番号	質問事項
（12）	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
（8）	自分には、よいところがあると思いますか
（15）	学校に行くのは楽しいと思いますか
（23）	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）
（20）	あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか



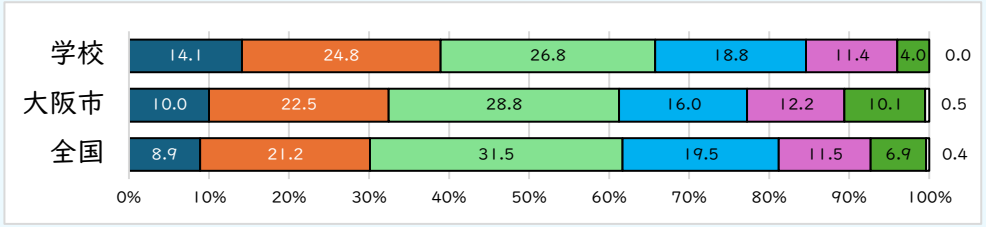
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



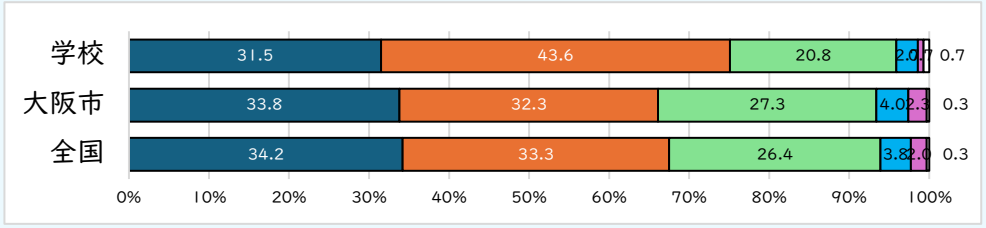
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



1 3時間以上
2 2時間以上、3時間より少ない
3 1時間以上、2時間より少ない
4 30分以上、1時間より少ない
5 30分より少ない
6 全くしない



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらともいえない
4 どちらかといえば、当てはまらない
5 当てはまらない

学校質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

質問番号	質問事項
（８）	調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか
（４３）	調査対象学年の生徒に対して、特別の教科 道徳において、取り上げる題材を生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか
（４０）	調査対象学年の生徒に対して、総合的な学習の時間において、生徒一人一人がICT機器を活用することにより、探究の過程の質が向上することを意識した指導をしていますか
（６８）	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか
（９０）	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習について、生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか

